様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　５ 月　９ 日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ００９７３

研究課題名（和文）第一次大戦後における地域青年党運動と学生社会運動の比較対照研究

研究課題名（英文）Comparative Study of Regional Youth Party Movement and Student Social Movement after World War I

研究代表者
伊東　久智（ITO, Hisanori）

千葉大学・大学院人文科学研究院・助教

研究者番号：９０４３４３７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、第一次大戦後における①地域青年党運動（農村部）と②学生社会運動（都市部）との関係性を、双方の比較対照によって解明することを目的として実施された。具体的には、①愛媛・大分両県の地域青年党と総選挙との関わり、②建設者同盟の「理論家」・田所輝明の思想・運動構想を、それぞれ事例・テーマとして設定した。それによって、1924～25年頃に地域青年党運動の活性化がみられ、また学生社会運動の側からの地域への働きかけも開始されることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の意義は、明治後期～第一次大戦期における若者の政治運動（「院外青年」運動）についての研究実績を踏まえつつ（その延長線上において）、従来別個に研究されてきた地域青年党運動（農村部）と学生社会運動（都市部）を、第一次大戦後における若者の政治的活性化という文脈において比較対照し、総合的に把握するための結節点を見出したことに求められる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the relationship between (1) the regional youth party movement (rural area) and (2) the student social movement (urban area) after World War I. Specifically, (1) the relationship between the regional youth parties in Ehime and Oita prefectures and the general election, and (2) the ideas and movements of Teruaki Tadokoro, a "theorist" of the "Kensetsusya-Domei (Constructors' Alliance)," were set as examples and themes. As a result, it was confirmed that the regional youth party movement became active around 1924 to 25, and that the student social movement started to approach the rural areas at that time.

研究分野：日本史

キーワード：日本近現代史　青年　学生　政治運動　社会運動

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近代日本には、若者と政治との距離感が縮まった時期が二つある。一つは明治前期の自由民権運動の高揚に際して、もう一つは第一次大戦後における各種社会運動の高揚に際してである。それらを二つの「山」にたとえるならば、間に挟まれた明治後期から第一次大戦期にかけての時代は、若者と政治との関係史上、「谷間」の時代であったといえる。

筆者（本研究代表者）はこれまで、「谷間」の時代（明治後期～第一次大戦期）に展開されていた若者たちの政治運動を、その主たるフィールド（帝国議会周辺）にちなんで「院外青年」運動と定義・発掘し、研究の対象としてきた。それによって、当該期における若者の政治運動が、自由民権運動の遺産を継承し、かつ第一次大戦後の諸運動へと連なっていくような独自の存在形態を備えていたことを明らかにしてきた。換言すれば、近代日本における若者と政治との関係史を、一連の流れのもとに把握することを可能ならしめようとしてきた。

本研究は、そうした従来の研究成果を踏まえつつ、さらに第一次大戦後の諸運動（間の関係）の実態解明へと研究の射程を拡張すべく、構想・実行されたものである。

２．研究の目的

本研究の目的は、第一次大戦後（戦間期）における地域青年党運動（農村部）及び学生社会運動（都市部）の事例的実態を比較対照することによって、明治後期～第一次大戦期の「院外青年」運動から連なる若者と政治との関係史をより精緻化することに置かれた。具体的には、以下の通り、研究の対象とする事例とテーマを設定した。

(1)地域青年党運動

愛媛・大分両県（比較的オーソドックスな党派対立の構図が認められる愛媛県と、全国でも有数の「政争県」であった大分県との組み合わせ）を事例として、特に総選挙（制限選挙・小選挙区制のもとで行われた第 14 回総選挙から、男子普選・中選挙区制のもとで行われた第 15～18 回総選挙まで、1920～32 年）との関わりをテーマとして文献・史料の収集を行うこととした。

(2)学生社会運動

早稲田大学建設者同盟（1919～26 年）、就中「理論家」のメンバーとして活躍した田所輝明を事例として、前期学生運動（「デモクラシー」思想）から後期学生運動（社会主義・共産主義思想）への転回過程の解明を第一のテーマに据え、また、運動家の多くが後に無産政党に加わることや、地域青年党運動の分析範囲・対象との整合性を鑑み、無産政党員としての選挙運動の実態解明を第二のテーマに据えつつ、文献・史料の収集を行うこととした。

３．研究の方法

地域青年党運動と学生社会運動の各々について、①文献調査と②史料調査を組み合わせた研究計画を立案した。具体的なスケジュール・方法は以下の通りである。

(1)平成 30 年度　文献による全体的状況の把握と具体的な史料調査の開始

①文献調査

地域青年党運動については、大分県地方史関係文献（自治体史誌等）の調査を、学生社会運動については、社会主義・共産主義運動全般にわたる文献の調査を、それぞれ実施する。

②史料調査

地域青年党運動については、大分県内発行地方紙（第 14～16 回総選挙）の現地調査を、学生社会運動については、建設者同盟機関誌『建設者』（1922 年 10 月～23 年 12 月）の調査を、それぞれ実施する。

(2)平成 31・令和元年度　文献による個別的対象の掘り下げと史料調査の継続

①文献調査

地域青年党運動については、大分県地方史関係文献の調査（継続）を、学生社会運動については、建設者同盟（参加者）関係文献の調査を、それぞれ実施する。

②史料調査

地域青年党運動については、大分県内発行地方紙（第 17～18 回総選挙）の現地調査を、学生社会運動については、建設者同盟機関誌『青年運動』（1924 年 2 月～25 年 7 月）の調査を、それぞれ実施する。

(3)令和 2 年度　文献調査の補遺と史料調査の完了

①文献調査
　地域青年党運動については、愛媛県／大分県地方紙関係文献の調査（補遺）を、学生社会運動については、建設者同盟（参加者）関係文献の調査（補遺）を、それぞれ実施する。
②史料調査
　地域青年党運動については、愛媛県／大分県内発行地方紙の現地調査（補遺）を、学生社会運動については、建設者同盟機関誌『無産階級』『霧散農民』（1925 年 9 月～26 年 12 月）の調査を、それぞれ実施する。

４．研究成果
以下、本研究の成果（実績）を、地域青年党運動と学生社会運動の各々について整理・提示する。

(1)地域青年党運動
既述の通り、本研究においては愛媛・大分両県の地域青年党運動と総選挙との関わりを分析の対象に据えたわけであるが、そのうち愛媛県については、事前に文献及び史料（地方紙）調査をほぼ完了していたため、実際には、大分県の地方史関係文献のリスト化・収集・調査と、同県内発行地方紙の現地調査が主要な課題となった。まず文献調査については、平成 30 年度から同 31・令和元年度にかけて、主要文献のリスト化・収集をほぼ完了し、現在に至るまで具体的な調査を継続している。またその間、愛媛県の地方史関係文献の追加収集も進めた。
次に史料調査については、以下①～④の現地調査を実施し、第 14～18 回総選挙における各陣営（党派）の選挙運動及び地域青年党の動向について記録した新聞記事を網羅的に収集した。なお、①の愛媛調査は、令和 2 年度に予定していた現地調査（補遺）を前倒しで実施したものであり、また③の愛媛調査は、②の大分調査を受けての方針変更（史料の残存状況や事例としての有効性などを鑑み、対象地域を愛媛県に絞り込むこととし、地方議会選挙も含めたより包括的な史料調査を実施すべきとの判断に至った。ただし、比較参考対象とするため、大分調査は④によって完遂した）に基づく。

①平成 31 年 3 月　愛媛調査（3 泊 4 日・愛媛県立図書館えひめ資料室）
　地域青年党運動が活発に展開された第 15 回総選挙（1924 年）を対象に、『大洲日報』『喜多評論』『喜多郡報』の調査を実施した。調査済みの主要紙（『愛媛新報』『海南新聞』）を補う追加調査である。
②平成 31 年 3 月　大分調査（3 泊 4 日・大分県立図書館郷土情報室）
　第 14～16 回総選挙（1920～28 年）を対象に、主要紙である『大分新聞』『豊州新報』の調査を実施した。
③令和元年 8 月　愛媛調査（4 泊 5 日・愛媛県立図書館えひめ資料室）
　第 14 回総選挙（1920 年）を対象とした『大洲日報』『喜多評論』の調査と、第 17～19 回愛媛県議会議員選挙（1915～23 年）を対象とした『愛媛新報』『海南新聞』の調査を、それぞれ実施した。
④令和元年 9 月　大分調査（3 泊 4 日・愛媛県立図書館えひめ資料室）
　第 17～18 回総選挙（1930～32 年）を対象に、引き続き主要紙（『大分新聞』『豊州新報』）の調査を実施した。

以上のように、当初予定していた大分県内発行地方紙の新規調査に加え、愛媛県内発行地方紙の追加調査（主要紙以外の地方紙を対象したもの）及び上記方針変更にともなう拡張調査（総選挙だけではなく、地方議会議員選挙も対象にしたもの）についても完遂することができた。今後は、具体的な紙面の分析を継続するとともに、文献調査の成果との総合、そして他史料の探索及びそれとの照合をまって、論文化へと繋げていくことが課題となる。
なお、令和 2 年度中に再度愛媛調査を実施する予定であったが（1924 年の立憲政友会分裂時の新聞報道を確認するため）、新型コロナウィルス感染症拡大の状況を鑑み、中止した（その分のエフォート・予算は文献調査・収集に充当した）。

(2)学生社会運動
学生社会運動については、まず研究文献及び刊行史料（田所輝明の著書や同人が執筆した雑誌など、同時代刊行文献等を含む）のリスト化・収集が主要な課題となった。これについては、社会主義・共産主義全般にわたる文献、建設者同盟（参加者）関係文献、そして田所関連文献と順を追って進め、概ね完了をみた。ただし、次に記すように、結果として無産政党結成以前の時期に関心を集中させることとなったため、無産政党関係（特に「中間派」のそれ）文献の収集・調査という課題が残された。
次に、建設者同盟の機関誌『建設者』『青年運動』『無産階級』『無産農民』（1922 年 10 月～26 年 12 月）の調査を、復刻版刊本を利用して概ね順調に進めることができた（『無産階級』『無産農民』の両誌については、いまだ精読の余地が残されているが）。その過程において（また上記の文献収集・調査を進めるなかで）、特に田所が深く関与した『青年運動』（1924 年 2 月～25 年 7 月）が、学生社会運動と地域青年党運動との結節点となり得る重要な史料であることがあらた

めて確認された。というのも、同誌のいう「青年運動」とは、地域の農村青年に対する啓蒙的な働きかけ（組織化）を意味しており、なおかつ、同誌が発行された時期は、愛媛・大分両県において（というより全国的な規模において）地域青年党運動が（とりわけ総選挙に際して）活発化した時期と重なるのである。今後は、同誌と田所の方向性をより精緻に分析・論文化するとともに、地域青年党運動に関する調査を 1924～25 年前後の愛媛県に絞り、各々の独自性と双方の関連性について検討を深めることとしたい。

なお、学生社会運動についての研究を進めるなかで、ジェンダー史（男性史）の観点から同運動を捉え直す機会（雑誌特集論文執筆の機会）を得て、建設者同盟と並ぶ代表的な学生社会運動団体＝東京帝国大学新人会を対象に、論考を発表することができた。本研究の当初の目的・計画にはなかった観点であるが、今後の研究に資するところは大きい。地域青年党運動と学生社会運動の双方が等しく「男性」運動であったことを思えば、そこに働いた男性性・「男らしさ」に基づく包摂・排除の論理を解き明かしていくことは、運動史とジェンダー史とを架橋するという意味においても、重要な課題となると考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 伊東　久智	４．巻 15
２．論文標題 日雇い労働者の「日記」にみる男性性の「温床」：昭和初期の東京市社会局調査資料を素材として	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ジェンダー史学	６．最初と最後の頁 5～18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11365/genderhistory.15.5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊東　久智	４．巻 843
２．論文標題 第一次大戦後の前期学生運動にみる男性性	５．発行年 2020年
３．雑誌名 歴史評論	６．最初と最後の頁 30～41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 伊東　久智
２．発表標題 早稲田大学建設者同盟とアジア：日本人同人と中国人留学生・彭湃の思想遍歴にみる
３．学会等名 早稲田文化芸術週間企画シンポジウム「第一次世界大戦後の国際社会運動と早稲田大学」
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊東　久智
２．発表標題 日雇い労働者の「日記」にみる男性性の「温床」：昭和初期の東京市社会局調査資料を素材として
３．学会等名 ジェンダー史学会第15回年次大会シンポジウム「男性史の新展開：対抗文化と男らしさに着目して」
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊東　久智
２．発表標題 「青年」運動史研究と男性史研究の架橋：第一次大戦後の学生社会運動を事例として
３．学会等名 法政大学大原社会問題研究所月例研究会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計1件

１．著者名 伊東　久智	４．発行年 2019年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 384
３．書名 「院外青年」運動の研究：日露戦後～第一次大戦期における若者と政治との関係史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関